

I 調査結果の概要

1 素材需給の動向

(1) 素材の需要

平成20年の素材の需要量（＝供給量）は2,603万6千m³で、前年に比べ275万3千m³（9.6%）減少した。

これを需要部門別にみると、「製材用」は1,756万8千m³で、世界的な金融危機に伴う景気後退感等により住宅需要が停滞していることなどから前年に比べ188万m³（9.7%）減少した。また、「合板用」は398万6千m³で、124万1千m³（23.7%）減少した。

一方、「木材チップ用」は448万2千m³で、燃料向け等の需要増により前年に比べ36万8千m³（8.9%）増加した。

この結果、需要部門別の構成割合は、「製材用」が67.5%、「合板用」が15.3%、「木材チップ用」が17.2%となった。（表1、図1）

図1 素材需要量の推移

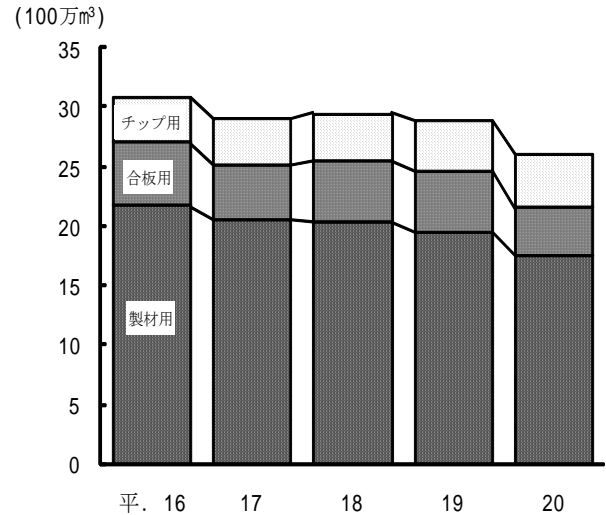


表1 需要部門別素材需要量

区分	計	製材用	合板用	木材チップ用
平成20年	26 036	17 568	3 986	4 482
対前年比 (%)	90.4	90.3	76.3	108.9
構成比 (%)	100.0	67.5	15.3	17.2

(参考) 関連統計表

区分	1) 新設住宅着工戸数		2) 紙・板紙生産量	2) 製紙パルプ生産量
	新設住宅	木造住宅	生産量	生産量
平成20年	1 093	517	30 627	10 664
対前年比 (%)	103.0	102.4	98.0	98.7

資料: 1) 国土交通省『建築着工統計』
2) 経済産業省『紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計年報』

(2) 素材の供給

素材の供給量（＝需要量）は、国産材が1,770万9千m³で前年に比べ5万9千m³（0.3%）増加した。これは、外材の供給量が減少している中で、国産材の利用促進等により、国産材の利用が前年並みで推移したことによる。

また、外材は832万7千m³で北洋材、南洋材等が減少したことから前年に比べ281万2千m³（25.2%）減少した。これは、北洋材については丸太の輸出税の引き上げ予定により国産材へ移行したこと、また、南洋材等で年の前半において原油高により輸送コストが高騰したこと、諸外国において需要が増加し入手が困難になったこと、秋以降の世界的な金融危機に伴う景気後退感等により住宅需要が停滞していること等による。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は68.0%となり、前年を6.7ポイント上回った。（表2及び3、図2）

図2 材種別素材供給量の推移

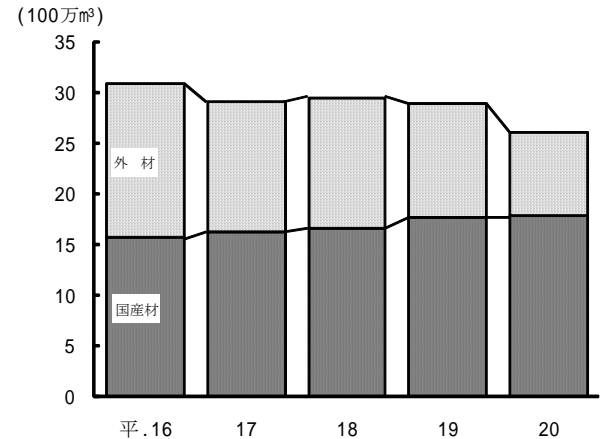


表2 国産材、外材別素材供給量

区分	計	国産材	外材
平成20年	26 036	17 709	8 327
対前年比 (%)	90.4	100.3	74.8
構成比 (%)	100.0	68.0	32.0

表3 需要部門別、材種別素材供給量

単位：千m³

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材		米材	北洋材	ニューシアー ラント材	その他
平成20年												
計	26 036	17 709	14 975	2 734	8 327	672	504	4 410	2 166	866	213	
製材用	17 568	11 110	10 930	180	6 458	137	14	4 267	1 035	833	186	
合板用	3 986	2 137	2 103	34	1 849	535	490	135	1 123	33	23	
木材チップ用	4 482	4 462	1 942	2 520	20	0	0	8	8	0	4	
対前年比(%)												
計	90.4	100.3	98.8	109.9	74.8	66.7	65.6	95.6	48.8	102.5	90.6	
製材用	90.3	92.7	92.8	90.5	86.5	84.6	70.0	93.5	60.3	103.0	84.9	
合板用	76.3	130.9	129.9	261.5	51.4	63.2	65.5	281.3	42.3	94.3	209.1	
木材チップ用	108.9	110.5	110.3	110.7	26.0	266.7	11.8	...	80.0	
構成比(%)												
計	100.0	68.0	57.5	10.5	32.0	2.6	1.9	16.9	8.3	3.3	0.8	
製材用	100.0	63.2	62.2	1.0	36.8	0.8	0.1	24.3	5.9	4.7	1.1	
合板用	100.0	53.6	52.8	0.9	46.4	13.4	12.3	3.4	28.2	0.8	0.6	
木材チップ用	100.0	99.6	43.3	56.2	0.4	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.1	

ア 国産材の供給

国産材の供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,497万5千m³で、主に「製材用」が減少したことから、18万7千m³（1.2%）減少した。

これを樹種別にみると、「あかまつ・くろまつ」及び「からまつ」は前年に比べそれぞれ2万1千m³（2.6%）、1万7千m³（0.7%）増加したものの、製材用の生産量が減少したことから「ひのき」及び「すぎ」は前年に比べそれぞれ10万m³（5.0%）、9万3千m³（1.1%）減少した。

また、広葉樹は273万4千m³で、主に「木材チップ用」が増加したことから、前年に比べ24万6千m³（9.9%）増加した。

（表3及び4、図3）

図3 樹種別素材生産量の推移

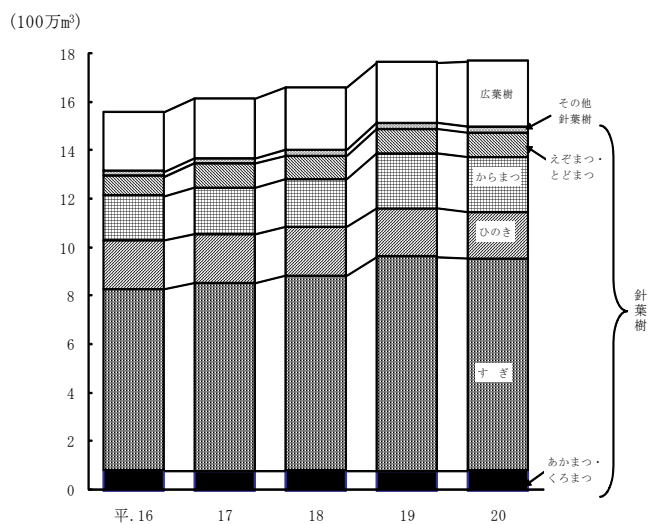


表4 需要部門別、樹種別素材生産量

単位：千m³

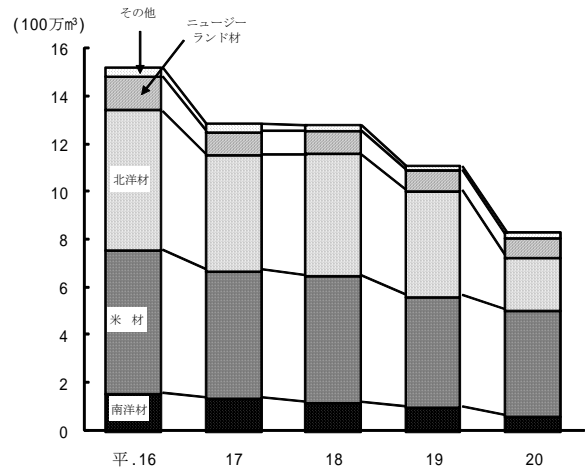
区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成20年									
計	17 709	14 975	815	8 755	1 886	2 297	988	234	2 734
製材用	11 110	10 930	225	6 782	1 777	1 285	783	78	180
合板用	2 137	2 103	135	1 297	25	592	35	19	34
木材チップ用	4 462	1 942	455	676	84	420	170	137	2 520
対前年比(%)									
計	100.3	98.8	102.6	98.9	95.0	100.7	97.6	96.7	109.9
製材用	92.7	92.8	85.6	94.5	93.1	85.6	94.2	75.7	90.5
合板用	130.9	129.9	103.8	122.2	416.7	153.4	175.0	118.8	261.5
木材チップ用	110.5	110.3	113.5	110.5	118.3	106.9	105.6	111.4	110.7
構成比(%)									
計	100.0	84.6	4.6	49.4	10.6	13.0	5.6	1.3	15.4
製材用	100.0	98.4	2.0	61.0	16.0	11.6	7.0	0.7	1.6
合板用	100.0	98.4	6.3	60.7	1.2	27.7	1.6	0.9	1.6
木材チップ用	100.0	43.5	10.2	15.2	1.9	9.4	3.8	3.1	56.5

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、米材は441万³m、北洋材は216万6千³m、南洋材は67万2千³mで、前年に比べそれぞれ20万3千³m（4.4%）、227万2千³m（51.2%）、33万6千³m（33.3%）減少した。

（表3、図4）

図4 外材供給量の推移



2 木材産業の動向

(1) 製材業

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成20年12月31日現在の製材工場数は7,378工場で、前年に比べ527工場（6.7%）減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、主に「37.5～75.0未満」、「22.5～37.5未満」及び「75.0～150.0未満」の階層においてそれぞれ233工場（8.1%）、159工場（9.6%）、63工場（4.6%）減少した。

製材用動力の総出力数は75万3,521.3kWで、前年に比べ3万9,438.0kW（5.0%）減少したものの、1工場当たりの出力数は102.1kWで、前年に比べ1.8kW（1.8%）増加した。（表5）

表5 製材工場数、製材用動力の出力数（平成20年12月31日現在）

出力階層		平成20年	対前年比	構成比
工場数	計	7 378	93.3	100.0
	7.5～22.5kW未満	790	96.0	10.7
	22.5～37.5	1 501	90.4	20.3
	37.5～75.0	2 628	91.9	35.6
	75.0～150.0	1 309	95.4	17.7
	150.0～300.0	681	96.5	9.2
	300.0kW以上	469	97.1	6.4
総出力数		753 521.3	95.0	-
1工場当たり出力数		102.1	101.8	-

イ 従業員数

平成20年12月31日現在で操業している工場の従業者数は3万8,260人で、前年に比べ3,867人（9.2%）減少し、1工場当たりの従業者数は5.2人で、前年に比べ0.2人（3.7%）減少した。（表6）

表6 従業者数規模別製材工場数及び従業者数（12月操業）

年次	従業者数規模別製材工場数（12月操業）							従業者数
	計	4人以下	5～9	10～19	20～29	30～49	50人以上	（12月31日現在）
平成20年	7 344	4 767	1 683	662	142	62	28	38 260
対前年比（%）	93.5	95.3	90.5	91.3	87.1	88.6	80.0	90.8
構成比（%）	100.0	64.9	22.9	9.0	1.9	0.8	0.4	1) 5.2

注：1) は、1工場当たりの従業者数である。

ウ 製材用素材消費量

平成20年の製材用素材消費量は1,761万9千m³で、前年に比べ159万2千m³（8.3%）減少した。

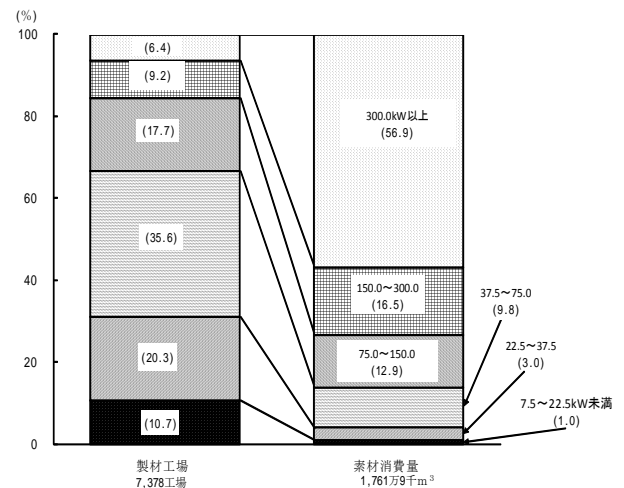
これを製材用動力の出力階層別にみると、主に「300.0kW以上」、「75.0～150.0未満」及び「37.5～75.0未満」の階層においてそれぞれ67万m³（6.3%）、34万7千m³（13.3%）、28万3千m³（14.1%）減少した。

なお、1工場当たりの素材消費量は2,388m³で、前年に比べ42m³（1.7%）減少した。（表7、図5）

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	平成20年	対前年比	構成比
	千m ³	%	%
計	17 619	91.7	100.0
7.5 ～ 22.5kW 未満	176	106.7	1.0
22.5 ～ 37.5	530	86.2	3.0
37.5 ～ 75.0	1 721	85.9	9.8
75.0 ～ 150.0	2 266	86.7	12.9
150.0 ～ 300.0	2 904	93.0	16.5
300.0kW 以上	10 022	93.7	56.9
1工場当たり消費量	2 388	98.3	-
	m ³		

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合（平成20年）



エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成20年の製材用素材入荷量は1,756万8千m³で、前年に比べ188万m³（9.7%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,111万m³で前年に比べ87万1千m³（7.3%）減少し、外材の入荷量は645万8千m³で前年に比べ100万9千m³（13.5%）減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は63.2%で、前年（61.6%）を1.6ポイント上回った。（表8、図6）

図6 製材用素材の入荷量の推移

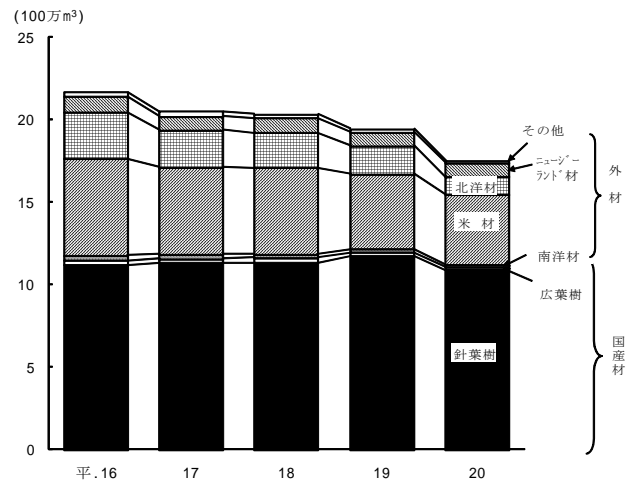


表8 材種別製材用素材の入荷量

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材		米材	北洋材	ニュージニアント材	その他
平成20年	17 568	11 110	10 930	180	6 458	137	14	4 267	1 035	833	186	
対前年比 (%)	90.3	92.7	92.8	90.5	86.5	84.6	70.0	93.5	60.3	103.0	84.9	
構成比 (%)	100.0	63.2	62.2	1.0	36.8	0.8	0.1	24.3	5.9	4.7	1.1	

単位：千m³

(イ) 素材の入荷があった製材工場は7,330工場で、前年に比べ508工場（6.5%）減少した。
これを入荷類型別の工場数でみると、国産材のみは4,661工場、国産材と外材は2,075工場、
外材のみは594工場で、前年に比べそれぞれ62工場（1.3%）、313工場（13.1%）、133工場
（18.3%）減少した。

入荷量でみると、国産材のみは962万2千 m^3 、国産材と外材は296万2千 m^3 、外材のみは
498万4千 m^3 で、前年に比べそれぞれ65万3千 m^3 （6.4%）、38万9千 m^3 （11.6%）、83万8千
 m^3 （14.4%）減少した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の工場が入荷量の全体の約6割を
占めている。（表9）

表9 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成20年								
計	7 330	17 568	4 661	9 622	2 075	2 962	594	4 984
7.5～22.5kW未満	785	177	620	133	125	33	40	11
22.5 ～ 37.5	1 481	526	1 084	397	328	104	69	25
37.5 ～ 75.0	2 619	1 739	1 557	1 031	886	514	176	194
75.0 ～ 150.0	1 297	2 253	738	1 308	419	652	140	293
150.0 ～ 300.0	681	2 910	378	1 758	211	676	92	476
300.0kW以上	467	9 963	284	4 995	106	983	77	3 985
対前年比（%）								
計	93.5	90.3	98.7	93.6	86.9	88.4	81.7	85.6
7.5～22.5kW未満	97.5	98.3	99.4	96.4	96.2	91.7	78.4	183.3
22.5 ～ 37.5	90.3	85.8	100.4	98.3	66.8	58.4	100.0	80.6
37.5 ～ 75.0	92.1	86.3	93.8	82.4	95.2	95.0	69.6	87.0
75.0 ～ 150.0	95.0	86.6	104.8	93.8	84.8	85.5	83.8	66.0
150.0 ～ 300.0	97.0	93.1	98.2	94.1	95.0	92.5	96.8	90.3
300.0kW以上	96.9	91.3	105.2	95.7	88.3	89.2	83.7	86.8

注：工場数は、平成20年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は1,088万4千 m^3 で、前年に比べ74万8千 m^3 （6.4%）減少した。

出荷量を用途別にみると、主に「建築用材」、「木箱仕組板・こん包用材」及び「土木建設用材」の用途においてそれぞれ61万9千 m^3 （6.5%）、6万7千 m^3 （5.1%）、5万 m^3 （10.7%）減少した。

また、人工乾燥材出荷量は234万8千 m^3 で、前年に比べ5万5千 m^3 （2.4%）増加し、出荷量計における人工乾燥材出荷量の割合は21.6%と前年に比べ1.9ポイント上回った。（表10、図7）

図7 用途別製材品出荷量の推移

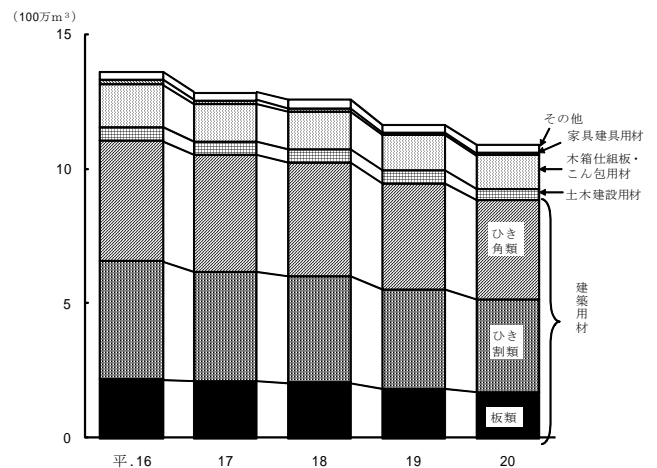


表10 用途別製材品出荷量

区分	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具・建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
平成20年	10 884	2 348	8 836	1 715	3 430	3 691	418	1 254	78	298
対前年比（%）	93.6	102.4	93.5	93.5	93.4	93.5	89.3	94.9	83.0	101.4
構成比（%）	100.0	21.6	81.2	15.8	31.5	33.9	3.8	11.5	0.7	2.7

単位：千 m^3

(2) 合単板製造業

ア 合単板工場数及び従業者数

平成20年12月31日現在の合単板工場数は233工場で、前年に比べ15工場（6.0%）減少した。これは、普通合板のみ製造している工場及び特殊合板のみ製造している工場においてそれぞれ7工場（16.3%）、6工場（3.5%）減少したことによる。

合単板工場の従業者数は1万40人で前年に比べ1,104人（9.9%）減少した。

なお、1工場当たりの従業者数は43.1人で、前年に比べ1.8人減少した。（表11）

表11 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（平成20年12月31日現在）

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり従業者数
	計		9人以下	10～49	50～99	100～199	200～299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
工場	工場	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	人	
計	233	94.0	99	82	20	19	8	5	10 040	90.1	43.1
単板のみ	22	95.7	8	11	1	2	-	-	693	109.0	31.5
普通合板のみ	36	83.7	-	13	5	12	4	2	4 975	89.0	110.6
普通合板と特殊合板	9	90.0	1	1	5	-	1	1			
特殊合板のみ	166	96.5	90	57	9	5	3	2	4 372	88.8	26.3

注：1) は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量

平成20年の単板製造用素材の入荷量は398万6千m³で、前年に比べ124万1千m³（23.7%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は213万7千m³で、合板原料としての国産針葉樹の利用が増加したこと等から前年に比べ50万5千m³（30.9%）増加した。一方、外材は184万9千m³で、前年に比べ174万6千m³（48.6%）減少した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は53.6%で、前年（31.2%）を22.4ポイント上回った。

（表12、図8）

図8 単板製造用素材の入荷量の推移

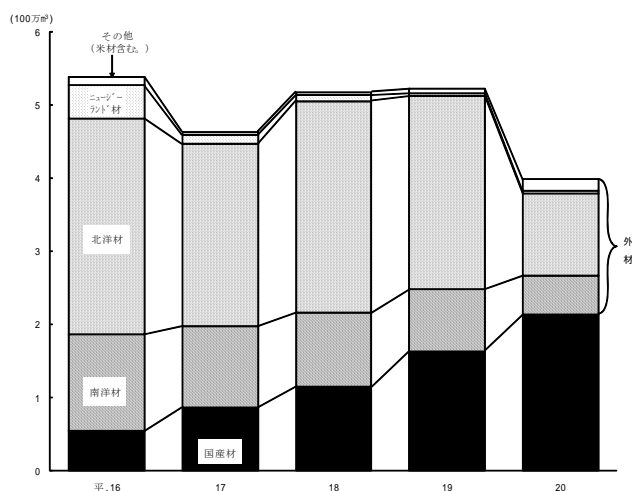


表12 材種別単板製造用素材の入荷量

単位：千m³

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
平成20年	3 986	2 137	2 103	34	1 849	1 276	535	490	135	1 123	33	23
対前年比 (%)	76.3	130.9	129.9	261.5	51.4	47.3	63.2	65.5	281.3	42.3	94.3	209.1
構成比 (%)	100.0	53.6	52.8	0.9	46.4	32.0	13.4	12.3	3.4	28.2	0.8	0.6

ウ 普通合板生産量

平成20年の普通合板生産量は258万6千 m^3 で、前年に比べ48万7千 m^3 （15.8%）減少した。
厚さ別にみると、主に「12mm以上」及び「6～12mm未満」の階層で前年に比べそれぞれ35万4千 m^3 （14.6%）、7万1千 m^3 （16.1%）減少した。

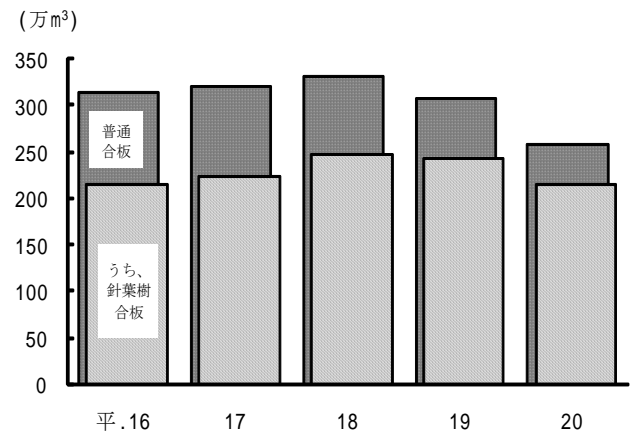
また、生産量のうち、針葉樹合板生産量は215万6千 m^3 で、前年に比べ26万8千 m^3 （11.1%）減少した。

この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は83.4%で、前年（78.9%）を4.5ポイント上回った。（表13、図9）

表13 普通合板生産量

区 分	単位 { 生産量:千 m^3 (万 m^3) 比 率:%		
	平成20年	対前年比	構成比
普通合板生産量	2 586	84.2	100.0
3 mm 未 満	33	61.1	1.3
3 ～ 6 mm	111	73.0	4.3
6 ～ 12 mm	369	83.9	14.3
12 mm 以 上	2 073	85.4	80.2
うち針葉樹合板	2 156	88.9	83.4

図9 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

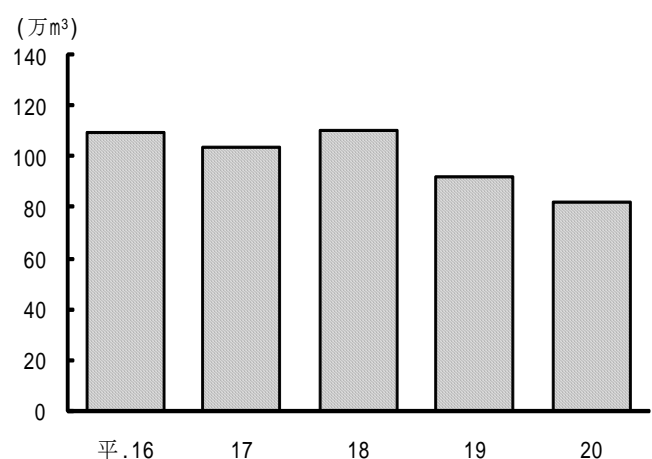
平成20年の特殊合板生産量は82万5千 m^3 で、前年に比べ9万9千 m^3 （10.7%）減少した。

これを種類別にみると、オーバーレイ合板は3万1千 m^3 、プリント合板は10万4千 m^3 、塗装合板は2万6千 m^3 、天然木化粧合板は4万8千 m^3 、その他の合板は61万6千 m^3 で、前年に比べそれぞれ減少した。（表14、図10）

表14 特殊合板生産量

区 分	単位 { 生産量:千 m^3 (万 m^3) 比 率:%		
	平成20年	対前年比	構成比
特殊合板生産量	825	89.3	100.0
オーバーレイ合板	31	96.9	3.8
プリント合板	104	79.4	12.6
塗 装 合 板	26	72.2	3.2
天然木化粧合板	48	90.6	5.8
そ の 他 の 合 板	616	91.7	74.7
うち木質複合床板	424	90.8	51.4

図10 特殊合板生産量の推移



(3) 木材チップ製造業

ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成20年12月31日現在の木材チップ工場数は1,744工場で、前年に比べ113工場（6.1%）減少した。

これを専門・兼営区分別にみると、「木材チップ専門工場」は369工場で、前年に比べ3工場（0.8%）増加し、「製材又は合単板工場との兼営工場」は1,375工場で、前年に比べ116工場（7.8%）減少した。

木材チップ工場の従業者数は3,034人で、前年に比べ392人（11.4%）減少した。

また、1工場当たりの従業者数は1.7人で、前年に比べ0.1人（5.6%）減少した。（表15）

表15 専門・兼営区分別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数
（平成20年12月31日現在）

専門・兼営区分別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
	工場	%	工場	工場	工場	工場	人	%	人
計	1 744	93.9	1 543	153	43	5	3 034	88.6	1.7
木材チップ専門工場	369	100.8	194	131	39	5
製材又は合単板工場との兼営工場	1 375	92.2	1 349	22	4	-

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合単板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

イ 木材チップ用素材入荷量

平成20年の木材チップ用の素材入荷量は448万2千m³で、前年に比べ36万8千m³（8.9%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は446万2千m³で、前年に比べ42万5千m³（10.5%）増加し、一方、外材の入荷量は2万m³で、前年に比べ5万7千m³（74.0%）減少した。（表16、図11）

図11 木材チップ用素材の入荷量の推移

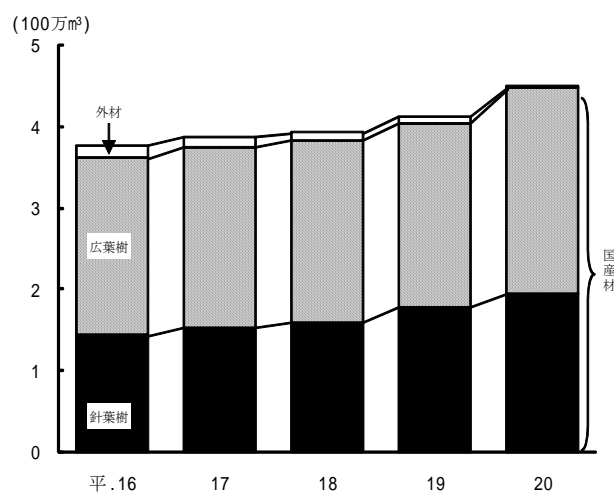


表16 材種別木材チップ製造用素材の入荷量

単位：千m³

区分	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーンランド材	その他
平成20年	4 482	4 462	1 942	2 520	20	0	0	8	8	0	4
対前年比 (%)	108.9	110.5	110.3	110.7	26.0	266.7	11.8	...	80.0
構成比 (%)	100.0	99.6	43.3	56.2	0.4	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.1

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

平成20年の木材チップ生産量は579万7千tで、前年に比べ9万7千t（1.6%）減少した。

これを原材料別にみると、「素材(原木)」及び「林地残材」は前年に比べそれぞれ30万8千t（13.0%）、4千t（4.0%）増加したものの、「工場残材」及び「解体材・廃材」は前年に比べそれぞれ26万9千t（12.3%）、14万t（11.3%）減少した。

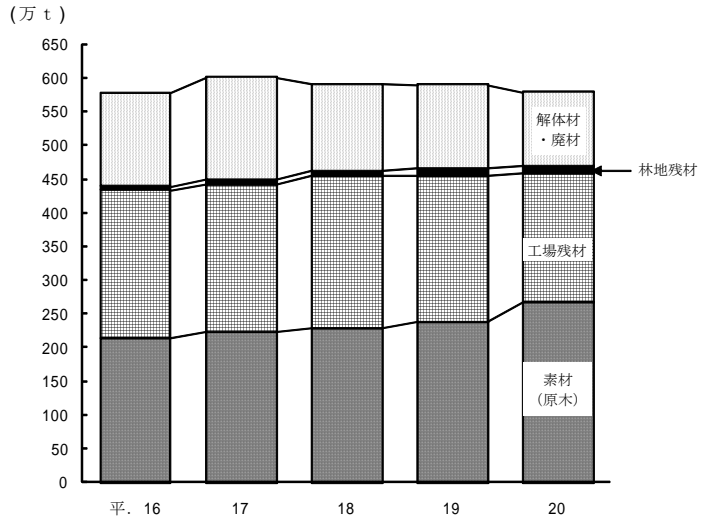
また、針葉樹・広葉樹別にみると、「針葉樹」は291万8千tで、前年に比べ5.5%減少し、一方、「広葉樹」は177万5千tで、前年に比べ13.6%増加した。（表17、図12）

表17 木材チップ生産量

区 分	単位 { 生産量:千t 比率:%		
	平成20年	対前年比	構成比
木材チップ生産量 (原材料別)	5 797	98.4	100.0
素材(原木)	2 676	113.0	46.2
工場残材	1 913	87.7	33.0
林地残材	104	104.0	1.8
解体材・廃材	1 104	88.7	19.0
(針葉樹・広葉樹別)			
針葉樹	2 918	94.5	-
広葉樹	1 775	113.6	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図12 木材チップ生産量の推移



3 木材価格の動向

(1) 素材価格（丸太価格）（表18、図13）

素材価格は、国産材は年の前半、新設住宅着工数の減少により低下傾向にあり、年の後半は、新設住宅着工数が回復したことにより上昇傾向となったが、年平均ではおおむね昨年と比べて低下した。外材は、年平均では米材がおおむね前年並み、北洋材は昨年との輸出税値上げ前の駆け込み需要が落ち着いたこと等により、低下傾向となった。

また、品目別の価格の動向は次のとおりである。

ア 「まつ中丸太」（径24.0～28.0cm、長3.65～4.0m）は、年間をとおして低下傾向で推移し、年平均（1㎡当たり。以下同じ。）では1万4,300円で前年に比べ900円低下した。

イ 「すぎ中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）は、年の後半上昇傾向で推移したものの、年の前半が低下傾向で推移していたことから、年平均では1万2,200円で前年に比べ1,100円低下した。

ウ 「ひのき中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）は、年の後半上昇傾向で推移したものの、年の前半が低下傾向で推移していたことから、年平均では2万3,600円で前年に比べ1,900円低下した。

エ 「米つが丸太」（径30.0cm上、長6.0m上、No.3）は、年間をとおしてほぼ安定的に推移し、年平均では2万7,300円で前年に比べ100円上昇した。

オ 「北洋えぞまつ丸太」（径20.0～28.0cm、長3.8m上）は、年の後半上昇傾向で推移したものの、年の前半が低下傾向で推移していたことから、年平均では2万3,000円で前年に比べ600円低下した。

表18 素材価格

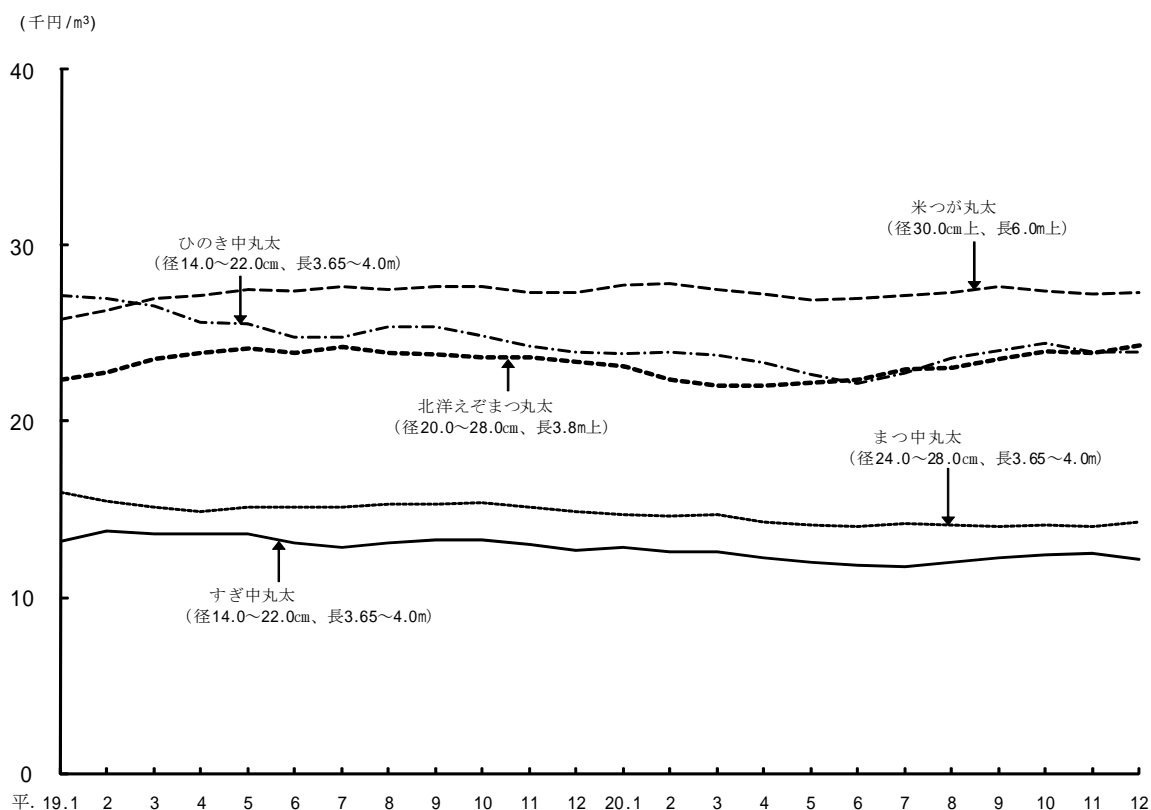
単位：1㎡当たり円

年次	まつ	すぎ	ひのき	米つが	北洋えぞまつ
	中丸太	中丸太	中丸太	丸太	丸太
	径 24.0～28.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 30.0 cm上 長 6.0 m上	径 20.0～28.0 cm 長 3.8 m上
	込 み	込 み	込 み	No.3	込 み
平均価格					
平. 17	...	12 400	25 200	23 500	...
18	...	12 700	26 500	24 100	...
19	15 200	13 300	25 500	27 200	23 600
20	14 300	12 200	23 600	27 300	23 000
対前年差					
平. 18	...	300	1 300	600	...
19	...	600	1 000	3 100	...
20	900	1 100	1 900	100	600

注：1 平成19年1月から調査対象都道府県を変更したため、過年次価格の遡及ができない「まつ中丸太」及び「北洋えぞまつ丸太」については平成18年以前の価格を「…」とした。

2 ※が付いた価格は、調査対象工場への消費税の取扱いの確認が困難なため、消費税を含む価格と含まない価格を集計した結果である（以下の統計表においても同様。）。

図13 素材価格の推移



(2) 木材製品卸売価格 (表19、図14)

木材製品卸売価格は、国産材製品は年の前半、新設住宅着工数の減少により低下傾向にあり、年の後半は、新設住宅着工数が回復したことにより上昇傾向となったが、年平均では「まつ平角」が大きく上昇したものの、おおむね昨年と比べて低下傾向となった。外材製品は、米材の「米つが正角（防腐処理材・乾燥材）」が大きく上昇したほかは、おおむね前年並み。北洋材は昨年の輸出税値上げ前の駆け込み需要が落ち着いたこと等により低下傾向となった。

また、品目別の価格の動向は次のとおりである。

ア 製材品

- (ア) 「まつ平角」（厚10.5~12.0cm、幅24.0cm、長3.65~4.0m）は、年の後半は、安定して推移したものの、年の前半が上昇傾向だったことから、年平均では6万200円で前年に比べ5,900円上昇した。
- (イ) 「すぎ正角」（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m）は、年の後半は、上昇傾向となったものの、年の前半が低下傾向だったことから、年平均では4万2,400円で前年に比べ500円低下した。
- (ウ) 「ひのき正角」（厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m）は、年の後半は、上昇傾向となったものの、年の前半が低下傾向だったことから、年平均では6万7,900円で前年に比べ1,700円低下した。
- (エ) 「米つが正角（防腐処理材）」（厚12.0cm、幅12.0cm、長4.0m）は、年の半ばに上昇傾向、後半は安定して推移し、年平均では6万7,900円で前年に比べ400円低下した。
- (オ) 「北洋えぞまつ板」（厚1.2~1.5cm、幅15.0cm、長3.65~4.0m）は、年の後半は上昇傾向となったものの、年の前半が低下傾向だったことから、年平均では5万9,700円で前年に比べ1,400円低下した。

イ 合 板

「針葉樹合板」(厚1.2cm、幅91.0cm、長1.82m)は、年の半ばに上昇傾向となったものの、年の前半・後半が低下傾向だったことから、年平均では990円で前年に比べ380円低下した。

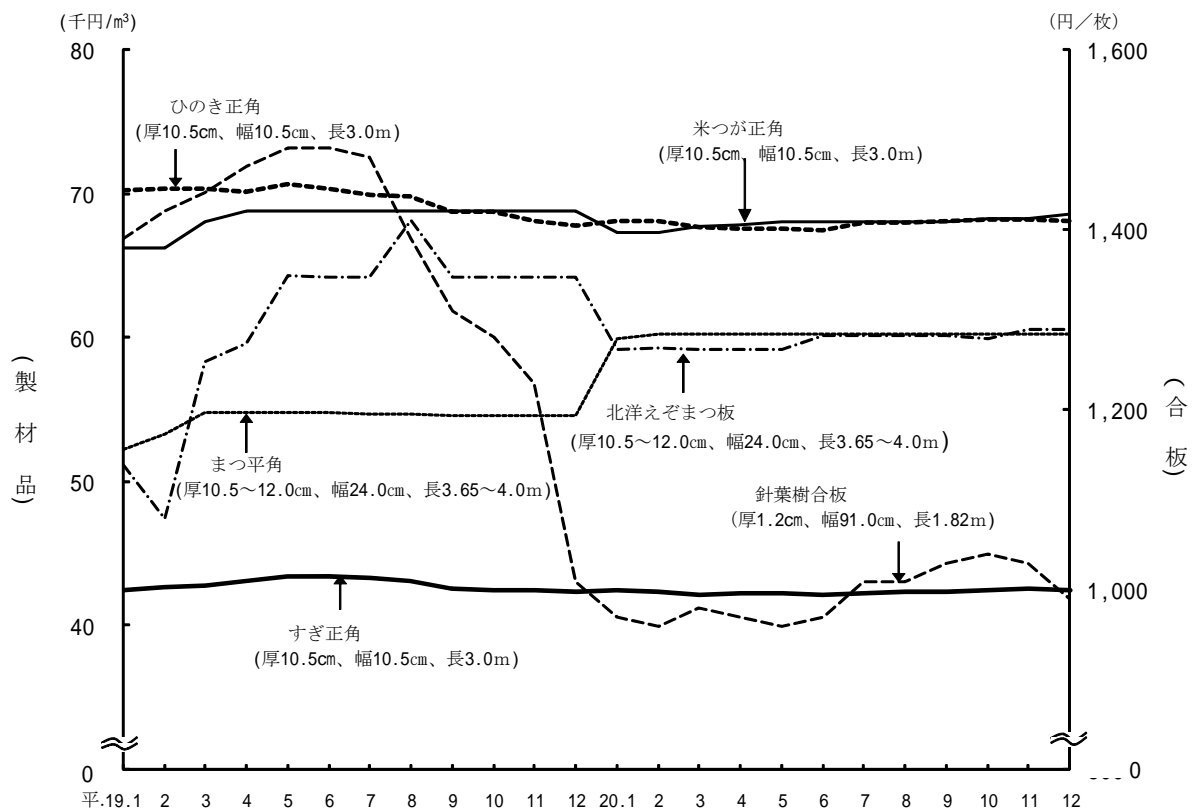
表19 木材製品卸売価格

単位：1m³当たり円

年 次	まつ平角	すぎ正角	ひのき正角	米つが正角 (防腐処理材)	北洋えぞまつ板	針葉樹合板 (1枚当たり)
	厚 10.5~12.0 cm 幅 24.0 cm 長 3.65~4.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 12.0 cm 幅 12.0 cm 長 4.0 m	厚 1.2~1.5 cm 幅 15.0 cm 長 3.65~4.0 m	厚 1.2 cm 幅 91.0 cm 長 1.82 m
	2 級	2 級	2 級	2 級	1 級	1 類
	平均価格					
平. 17	...	40 700	66 300	...	45 000	960
18	...	40 700	64 400	...	47 200	1 070
19	54 300	42 900	69 600	68 300	61 100	1 370
20	60 200	42 400	67 900	67 900	59 700	990
対前年差						
平. 18	...	0	1 900	...	2 200	110
19	...	2 200	5 200	...	13 900	300
20	5 900	500	1 700	400	1 400	380

注：平成19年1月から調査対象都道府県を変更したため、過年次価格の遡及ができない「まつ平角」及び「米つが正角(防腐処理材)」については平成18年以前の価格を「…」表記とした。

図14 木材製品卸売価格の推移



(3) 木材チップ価格

木材チップの価格は、年間を通して上昇傾向で推移し、年平均では針葉樹は1万2,800円で前年に比べ800円、広葉樹は1万7,000円で前年に比べ1,600円上昇した。（表20、図15）

表20 木材チップ価格（パルプ向け）

単位：1t当たり円

年次	針葉樹	広葉樹
平均価格		
平. 19	12 000	15 400
20	12 800	17 000
対前年差		
平. 19
20	800	1 600

注：平成19年1月から調査対象都道府県を変更したため、過年次価格の遡及ができないことから、19年以降の価格のみを掲載した。

図15 木材チップ価格の推移

